



今年は、たくさんの方の別れがありました。身近な人、まさかと驚く方など。お一人お一人に思い出があり、会えない辛さを想うと胸が苦しいばかりです。そんな時は、抱え込まず言葉にして、外に出すことにしています。ありがとうございます。さようなら。

終活

良啓

先日、担当するラジオ番組で「終活の3つのポイント」と言うお話をさせて頂きましたので、ご紹介したいと思います。

1 故人とその家族の気持ちをお互いに話し合う。

現代は便利な世の中です。病院から四十九日忌まで全て葬儀社が世話をして頂けます。遺族は決断をする以外は、意外とゆっくり出来ます。反面、故人の想いや家族の気持ちを確かめ合い、形にする事が難しくなっています。

2 写真を撮る。

高齢になると、写真撮影をする機会が少なくなります。米寿やトーカー等の記念写真があれば良いのですが、その前に他界されると大変です。若い人は、スマホやデジカメに、たくさんの方の写真データがあります。その中から一枚を選ぶのは、一苦労です。

3 亡くなるまでにしたい事リストを作って実行する。

巷にはエンディングノートが出回り、葬儀や墓、遺産など死後の計画について詳しく検討する方が多いですが、ちょっと待って下さい。生きている内の事も計画しましょう。

我々は必ず死を迎えます。その日までに、どうしても叶えたい夢や訪れたい場所を全て達成しませんか？

ちなみに私のリストを少しご紹介します。

イースター島のモアイ像を見る 身体を柔らかくする



身近にある仏教と言葉⑩

裕俊

私達が日常的に使っている言葉の中には、仏教に関係している言葉がたくさんあります。そんな言葉を由来と共にご紹介させていただきます。

おおげさ

「あなたの話はおおげさなのよ」とよく妻に言われております。出来事を大きく誇張してしまうという意味ですね。漢字で書くと大袈裟と書きます。袈裟といえば私達僧侶がお勤めの際に必ず着る衣ですが、大袈裟という言葉ができた由来は私達僧侶には耳が痛いお話になっています。とあるお坊さんが新たな宗派を開き、その教えが全国に広がっていくことになるのですが、その教えを広めるお坊さんたちは大きな袈裟を着て町を歩き、物の言い方も非常に大きかったことから、その様子を揶揄して大袈裟という言葉が生まれたと言われています。大袈裟という言葉が物事を誇張するという意味で使われたのはもっと後世になってからという話もありますが、私達僧侶は大袈裟になつてはいけないという戒めをこめてこの由来を紹介させていただきました。

